

矢櫃地区歴史文化財

和歌山県・有田市



江戸時代初期、矢櫃の地に人家はなかった。元和年間、初代紀州藩主徳川頼宣が海上警備の見張り役として古座町津荷の漁夫、茂兵衛（妻くま）・茂太夫（妻ちよめ）の二夫婦にそれぞれ海老船、鮑船3艇ずつを与え、諸役を免除してこの地に住ませたのが矢櫃の始まりである。漁場に恵まれ、茂兵衛・茂太夫二夫婦の子孫が次第に繁栄し、矢櫃は漁村として発展してきた。

徳川頼宣公坐像：頼宣の死去の翌年寛文12年、頼宣の公恩に感謝し、産土神と崇い奉った村民は頼宣の坐像を刻み、南龍神社を建て祀った。330年以上を経た今日でも、村民は毎年1月の第2日曜・月曜日にお日待ちという供養を行い、翌朝には紀州徳川家の菩提寺である長保寺に参拝している。

矢櫃浦祖先の碑：矢櫃の開祖である茂兵衛・くま、茂太夫・ちよ両夫婦の功德を顕彰して、現在、村の中央には数十坪の広場が区画され、そこに高さ1.5m幅1m余りの矢櫃浦祖先の碑が建立されている。

建造時期： 1672年（寛文12年） 昭和40年代

TOPICS

・お日待ち 毎年1月 第2日曜・月曜日 開催（徳川頼宣公供養、子どもみこし等）

お問い合わせ先

有田市役所経済建設部産業振興課水産振興係

TEL / 0737-83-1111

URL / <http://www.city.arida.wakayama.jp>

【交通】

バス / JR箕島駅から約15分(矢櫃バス下車)

